

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題  
事後評価報告書**

研究開発課題名	光反応を活用するフロー合成と連続球形晶析法によるヒトと環境に優しい統合型医薬品製造システムの開発
代表機関名	岐阜市 岐阜薬科大学
研究開発代表者名	伊藤 彰近
全研究開発期間	令和元年度～令和3年度

**1. 研究開発成果**

事後報告書(下 URL)参照

<https://www.amed.go.jp/content/000101256.pdf>

**2. 総合評価**

・ 良い

**【評価コメント】**

光反応を活用するフロー合成と連続球形晶析法の開発研究が概ね計画どおり実施され、その手法の有用性が示された。イブプロフェン、アルテミシニン、カルバマゼピンの3医薬品化合物についてフロー合成システム構成とPATの確立に至っており、自動化に向けた独自の工夫もなされ、社会実装が期待できる。

今後、要素技術の最適化検討に止まらず、さらに、実用化に向けて連続球形晶析技術も含めた技術改良を進めると共に、明確な目標数値に向けてコスト低減や効率化にも取り組み、本独自技術が我が国の企業の連続生産製造工程に組み込まれよう、早期に実用化の目処をつけていくことを希望する。

以上